

城里町の文化財さんぽ(五四)

町指定文化財(天然記念物)

「エンジュ」

指定年月日/平成七年二月一日
所在地/城里町上入野
管理・所有者/小松寺



「エンジュ」は、マメ科の落葉高木です。中国原産ですが、日本では古くから庭木や街路樹として植栽されてきました。樹皮は灰色で縦に裂け目ができ、葉は長さ一五〜二〇センチメートルの羽状複葉です。開花期は七月八月で、黄白色の小さな蝶形の花を枝先に多数つけます。この花を乾燥したものが生薬の「槐花」で、止血剤として

用いられています。果実は種子間かくびれた数珠状の莢で、長さは二〜五センチメートルです。

なお、建築用材でいう「エンジュ」は、日本固有種の「イヌエンジュ」のことで、本種とは別のものです。町指定文化財「エンジュ」は、小

松寺境内の唐門(町指定文化財)に隣接して聳えています。樹高は約一五メートル、幹回りは約三メートルです。推定樹齢約二〇〇年の古木ですが樹勢は旺盛で、大空に向かって力強く枝を張り出しています。

解説文/町文化財保護審議会会長小山映一
問合せ 教育委員会事務局
☎029-288-3135

俳句

終活は掛声ばかり鶉高音
今瀬 多代美
城跡の濠をたどり冬はじめ
瀬谷 博子
長き夜露天風呂より笑ひ声
綿引 英子
風鐸の音の悲しき野分かな
中野 千賀子
夏蝶を吸ひこみ森の暗さ増す
飯田 勇一
長き夜やチーズの四種とけはじめ
竹内 幸子

秋耕の終わりの一振り深く打つ
田口 勝元

切り立ちし荒き岩肌山紅葉
仲田 まちゑ

大空に浮雲一つ金木犀
寺門 孝子

彼岸花刈田の畦に紅のおび
羽石 雅春



川柳

お化粧もかわり映えなし婆の顔
富田 多蔵
GG大会昔の若者アツマール
車田 綾子
朝早く俺の耳では蚯蚓鳴く
飯村 孝一
国体で茨城の名全国に
川原 清

文芸しろさと

短歌

草引く手炊事をする手幼子
とつなぐ手吾の皺深き手よ
渡辺 千紗子
朝夕の児童の通学見ておれ
ば教職に励みし若き日思ふ
所 美恵子
吾よりも大きくなりし孫娘三
人少し離れて見上げつつ話す
山形 式妙
耳鳴りを気にして「ノーン」のみ
たれば雑音が止み有がたきかな
杉山 みちこ
文月の朝逝きたる若き友人
枢の中に美少女のごと
大森 久子

緑濃き田の面はいつか黄とな
りて穂波豊かに風に揺れるる
佐川 あや

幼き日吾に絵本を読みくれ
し姉の面影浮かぶ夕ぐれ
島 愛子

娘に連れられ松山道後の宿に
見る中秋の名月吾が誕生日
信田 育子

ひんやりと朝の窓辺にひよどり
の鳴き交わす声語り合うごとく
富田 佐智子

リズム良き鼓笛の音の聞こえ
来てうんどう会の近しと覚ゆ
萩谷 登喜子

終活はエンディングノート断捨離
と分かっているが整理すすまず
菌部 光子



「かなしみはいつか消えるよ」さき
波がささやくだから千波湖が好き
矢次 洋平